

第 17 回日本クウェート合同シンポジウム・再生可能エネルギー・セッション開催

平成 28 年 2 月 2 日、3 日の 2 日間に亘り、クウェートにおいてクウェート科学研究所 (Kuwait Institute for Scientific Research-KISR) にて第 17 回日本クウェート合同シンポジウムおよび再生可能エネルギー・セッションを開催いたしました。

本シンポジウムは、「石油産業の先進技術-Advancement in Petroleum Industries」をテーマとして、公益社団法人 石油学会 (The Japan Petroleum Institute: JPI)、JCCP、KISR、Kuwait National Petroleum Company(KNPC)の 4 者共催にて、例年開催しており、今回で第 17 回となりました。

今回のシンポジウムでは、従来の石油関連技術のシンポジウムに加えて、KISR 側の要請により、再生可能エネルギー・セッションを併せて開催しました。

2 月 2 日のシンポジウム第一日目は、9 時からオープニング・セレモニーがあり、KISR は石油研究センター、ミーナ所長が歓迎の挨拶を述べたのち、来賓の日本大使館花輪書記官、KNPC 研究・技術センター所長スアド・ラドワン氏、JCCP 平岡常務、上田石油学会長がそれぞれ祝辞と挨拶を述べました。

続いて、キーノートレクチャーとしてマラフィ所長が「高品質ディーゼル油の生産・プロセス技術」の講演を行いました。

午前の第 1 セッションでは「酸化的変換プロセス」、午後の第 2 セッションでは「水素化処理技術」のセッションテーマのもと、4 件の発表が行われました。

2 月 3 日のシンポジウム 2 日目は第 3 セッション「触媒とプロセス技術」第 4 セッション「製油所腐食対策」のセッションテーマのもと、6 件の発表が行われました。

日本からの発表は 4 件、KISR からはキーノート講演を含め 5 件、KNPC からは 2 件、合計 11 件の発表がありました。

- ① 神奈川大学工学部 物質生命化学科 上田 渉 教授 (石油学会会長)
講演演題 軽炭化水素の酸化的転換反应用複合酸化物触媒の進展
- ② 鹿児島大学 産学官連携推進センター 筒井俊雄教授
講演演題 高オクタン価ガソリン製造や B T X 併産を目的とした F C C 反応における生成物の炭化水素タイプに対する、ゼオライト種や、異種ゼオライトの階層構造複合体、および反応温度分布の影響
- ③ 出光興産 (株) 生産技術センター 占部 善久氏
講演演題 多環アロマ添加が残油水素化脱硫触媒の劣化に与える効果

- ④ J Xエネルギー（株）中央技術研究所 窪田 俊氏
講演演題 接触改質装置 熱交換器の汚れ抑制方法検討

2日間のシンポジウム参加者はのべ160名、KISR,KNPC関係者を中心に、クウェート触媒会社（KCC）、クウェート大学、OAPEC事務局、駐クウェート日本商社から多数のご参加をいただきました。



マラフィ所長、ラドワン所長、花輪書記官



左3番目から平岡常務、花輪書記官、上田会長、ハシェミ KISR 総裁代行、マラフィ所長、ラドワン所長

（再生可能エネルギー・セッション）

再生可能エネルギー・セッションは2月3日、シンポジウムと同じ KISR の石油研究センターの新館レクチャールームで開催されました。

オープニングでは、KISR 側は総裁代行のハシェム博士が挨拶をのべ、日本側は JCCP 平岡常務が挨拶をのべました。

冒頭のキーノートプレゼンテーションでは、日本側は産業技術総合研究所（産総研）再生可能エネルギー研究センター仁木研究センター所長が「産総研福島再生可能エネルギー研究センターの研究事業」として講演を行いました。クウェート側は KISR エネルギー・ビルディング研究センター（EBRC）ハジラフ所長が KISR EBRC 事業の概観-General Overview として講演を行いました。

続く第1セッション「再生可能エネルギーの技術」では、日本側から、ソーラーフロンティア(株)榎屋執行役員から「石油から太陽へ-ソーラーフロンティアの挑戦」として太陽光発電の講演が行われ、千代田化工建設(株)玉野氏が「次世代集光型ソーラーパワー技術-熔融塩トラフ型太陽熱発電」、川崎重工業吉村氏が「水素供給チェーン-川崎重工業の取り組み」と題して講演が行われました。

第 2 セッションではクウェート側からエルエスカンダラニ博士による「ナノテクノロジーと新素材（水素貯蔵）」、アルラクム博士が「クウェートのエネルギー効率向上計画」、ハドバン博士が「エネルギー需要の抑制」について講演を行いました。

セッションは予定の終了時間を大幅に超過して午後 2 時過ぎに終了しました。

会場の参加者（入れ替わりを含め約 70 名）は KNPC と KISR が中心で、日本企業（伊藤忠クウェート事務所、日揮クウェート事務所、日本から参加した価値総合研究所）からも参加がありました。

最後の締めくくりで EBRC ハジラフ博士からもとめられて、産総研仁木氏が、ムタイリ前総裁が 2 度も産総研福島再生エネルギーセンターを訪問した経緯もあり、今後も KISR との協力を進めたいと述べられました。平岡常務も KISR-産総研の関係構築が進捗することを期待すると述べられました。



(来賓および講演者)



以上